

21世紀に
伝えたい

ちば

の魅力

No. 3

鷹がりのために造られた
御成街道



静かなたずまいを残す御成街道沿い(千葉市若葉区金親町付近)

御成街道ってどこからどこまで？



鷹がリスタイルの
家康像(駿府城跡)

船橋から東金までほぼ一直線に延びる古街道。これが徳川家康が東金で鷹がりをするために佐倉藩主で老中であつた土井利勝に命じて造らせたという御成街道です。鷹がりを好んだ家康は江戸周辺

に「御鷹場」を設け、宿泊のための御殿を造らせました。鷹がりの名目で地方の情勢を視察したとも考えられています。

現在の道路でその道筋をたどると、船橋御殿(船橋市本町)から県道長沼・船橋線を東南へ進みます。千葉市稲毛区長沼原町で一旦途切れ、千葉市若葉区若松町で再び現われて御茶屋御殿(若葉区御殿町)を過ぎます。八街市沖で畑の中に消え



船橋御殿跡・船橋御殿跡

た道は同市上砂^{カミサ}につながり、東金市内では国道126号を辿って東金御殿(東金市東金)に至ります。当時新造された道の起点と終点について「東金市史」は諸説を紹介した上で、起点は成田街道との分岐点である船橋



東金御殿跡・県立東金高校と御殿山



御茶屋御殿跡(1995年の発掘調査時)

市前原西、そして終点は東金市黒田と推測しています。現在、船橋側を中心

に街道は一変しましたが、千葉市若葉区金親町付近は道幅も狭く、周囲の民家など風情あるたたずまいを残しています。

27日間でどうやって造ったの？

1613年(慶長18)12月12日、家康は道造りを命じ、翌年1月7日には鷹がりのため江戸城を出発しています。短期間で工事を完成させるため沿道の90以上の村々の農民がかりだされ、工事区間を分担しました。將軍一行の警護と距離の短縮を図って道を一直接にするため、船橋と東金でのろしをあげて方向を確認、大木などを目印にし、ここに昼は白旗、夜は提灯^{ていとう}をつるして原野を



切り開きました。道幅は約5.5メートルでした。工事のスピードを物語るように御成街道は「一夜街道」、「提灯街道」とも呼ばれています。

県道長沼・船橋線が国道16号と交差する千葉市稲毛区長沼原町付近

東金までかかった時間は？

御成街道は船橋から東金まで約37キロメートル。休みなしで歩いても約9時間の距離で、江戸城から東金まで片道2泊3日の旅でした。かつて家康が籠に乗って通った道を車で走れば、途中注目するものの2時間弱で到着します。ちなみにJR船橋駅から東金駅まで約52分(乗り換え時間除く)です。

将軍一行はどんな人たち？

御成街道を通過して家康は2回鷹がりに来ています。2回目は1615年(元和元)の冬で、数人の側室や腰元を連れていました。翌年春、家康は74歳で死去しています。二代将軍秀忠は8回訪れ、1630年の記録では、鷹匠、鳥見役人、御弓鉄砲頭、書院番、旗本など総勢522人の大行列で、周辺の大名を威圧しました。三代将軍家光は大納言の時に1度来ています。その後は五代将軍綱吉の時代に鷹がりに禁止令が出され、将軍の御成りはなく、御成街道は九十九里方面への物資輸送や生活路としての性格を強め、宿場もできました。



家康(左)に拝謁する最福寺七世住職・日善上人(東金市最福寺)

家康の側室「お万の方」



お万の方(勝浦城跡)

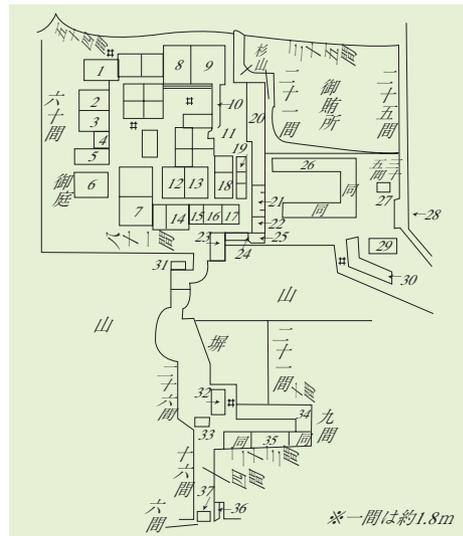
家康の15人の側室の中にお万の方があります。勝浦城主・正木左近大夫頼忠の娘で、勝浦城落城後、伊豆にいる時に家康に召し出されました。

その後、徳川御三家の紀州家と水戸家の祖となる頼宣と頼房を産んでいます。有名な水戸黄門はお万の方の孫にあたります。

東金御殿ってどんな家？

御成街道造成に伴って建てられた三つの御殿のうち、最も規模が大きかったのは東金市の八鶴湖畔にあった東金御殿です。右図は御殿を取り壊してから20年後に描かれたものをもとにした間取り図です。6,700坪(約22,110m²)の敷地に建ち40以上の部屋がありました。中央下が表門(図の37)、右に裏門(図の28)があります。表門から御殿へ続く道の両側は高い山となっていたようです。現在、東金御殿跡には県立東金高校があり、背後の山は御殿山と呼ばれています。

- | | | | | | |
|---------|--------|----------|---------|---------|--------------------|
| 1 御坊主部屋 | 8 上御台所 | 15 夜居 | 22 御門 | 28 御裏門 | 34 御馬屋 |
| 2 御小姓部屋 | 9 下御台所 | 16 御鉄砲部屋 | 23 大御番所 | 29 大御番所 | 35 御長屋 |
| 3 御物置 | 10 御廊下 | 17 御弓部屋 | 24 御腰懸 | 30 御鷹部屋 | 36 番所 |
| 4 御焼火 | 11 中ノ口 | 18 御老中部屋 | 25 御番所 | 31 番所 | 37 表御門 |
| 5 御休息 | 12 御花曇 | 19 雲隠 | 26 御鷹部屋 | 32 大御番所 | 「習志野市史第二巻史料編(1)」より |
| 6 御書院 | 13 遠侍 | 20 御長屋 | 27 番所 | 33 御門 | |
| 7 御広間 | 14 御玄間 | 21 御馬屋 | | | |



※一間は約1.8m



八鶴湖の夜桜

知・文人遊来の地「八鶴湖」

東金御殿建造の時に小池を広げてできた八鶴湖。周囲約800メートルで、三方を山に囲まれた景観は昔から多くの文人を魅了し、湖畔に現在もある老舗旅館・八鶴館には島崎藤村、伊藤左千夫、北原白秋などが訪れています。また御殿山への山道には白鳥吾吾らの文学碑があります(開門9:00~16:00)。

交通■JR東金線・東金駅下車
行事■東金さくらまつり
(八鶴湖/4月上旬)



上/御殿山の文学碑
下/昭和10年頃の八鶴館



遊・“房総の十和田湖”雄蛇ヶ池



江戸時代に造られたかんがい用の貯水池。周囲約4.5キロメートル。入りくんだ岸辺の景観は“房総の十和田湖”と呼ばれるほどで、ハイキングや釣りが楽しめます。交通■東金駅近くからバス10分

食・東金特産ゆずと家康

東金市の特産物の一つ「ゆず」。その栽培のルーツは家康が紀州と気候風土の似たこの地に自ら植えた白輪みかんに始まり、八鶴湖畔の本新寺には四代目の木が残っています。



- 東金市観光協会 ☎0475-50-1280
- 東金市ホームページ <http://www.city.togane.chiba.jp>



ふるさとの古街道

御成街道のほかにも県内にはいくつかの古街道があります。代表的なものは、現在もその名を残す水戸街道と成田街道です。それぞれどんな歴史があるのでしょうか。

成田街道

真言宗智山派の大本山・成田山への信仰と行楽を兼ねた成田詣は江戸時代中期から盛んになり、財力のついた江戸の町民たちがこぞって訪れ文化文政期(1804~1829年)に隆盛を迎えました。江戸からはいくつかのルートがありますが最も利用されたのは、日本橋小網町から行徳まで船を使い、そこから陸路を船橋、大和田、臼井、酒々井と四つの宿場を通して成田へ向かいました。古くは諸大名が参勤交代に利用し佐倉街道と呼ばれていましたが、旅人の往来が増えたとすると「成田街道」に改称されました。

右・昭和43年頃の松並木。手前左が国道51号 下・現在の松並木。約800m続きます。



●伊篠の松並木(酒々井市伊篠)

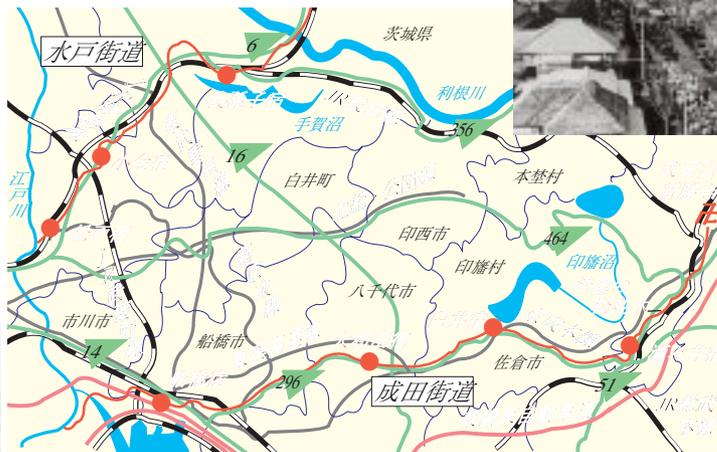
江戸時代、11万石の佐倉藩の城下町に属していた酒々井は、成田街道の宿場町でもあり、佐倉牧(幕府の牧場)がありました。佐倉牧の大官・小宮山空之進が植えたと言われる松は、高さ20~25メートルで、県の文化財に指定されるほど歴史的価値が高いものでしたが、1988年頃にマツクイムシの大被害に遭いました。その後新たな松が植樹され、景観を取り戻す努力が現在もなされています。

水戸街道

東京と仙台を結ぶ国道6号の水戸までが水戸街道と呼ばれていますが、旧水戸街道は五街道と同じく、江戸日本橋を起点に千住、新宿を通り、金町で江戸川を渡って千葉県側に入ります。松戸、小金、我孫子の三つの宿場を通して青山の渡し(我孫子市青山)を越え水戸へ続いていました。江戸時代初期に参勤交代のために整えられました。水戸には徳川御三家の一つがあったため、とても重要視された街道です。



年(上から)現在の玉屋付近と昭和13



●小金宿(松戸市小金)

水戸街道4番目の宿場。松戸市小金の一月寺あたりからJR北小金駅までの約300メートルです。旅籠や商家、水戸家の本陣、虚無僧寺として知られた普化宗本山の一月寺(現在の一月寺は日蓮正宗)、関東十八種林の一つで寺勢を誇った東漸寺があり、にぎわいました。現在も江戸末期に建てられた東漸寺の本堂や旧旅籠の「玉屋」、明治期の農家などが残されていて当時の面影をとどめています。